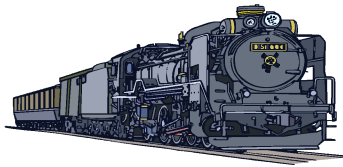


市川を調べる

編集 市川を調べる会
発行 八戸市立市川公民館

【お知らせ】 広報紙「市川を調べる」の各号がインターネットに掲載されています。
※「市川を調べる会」にアクセス。(または、八戸市立市川中学校)



陸奥市川駅

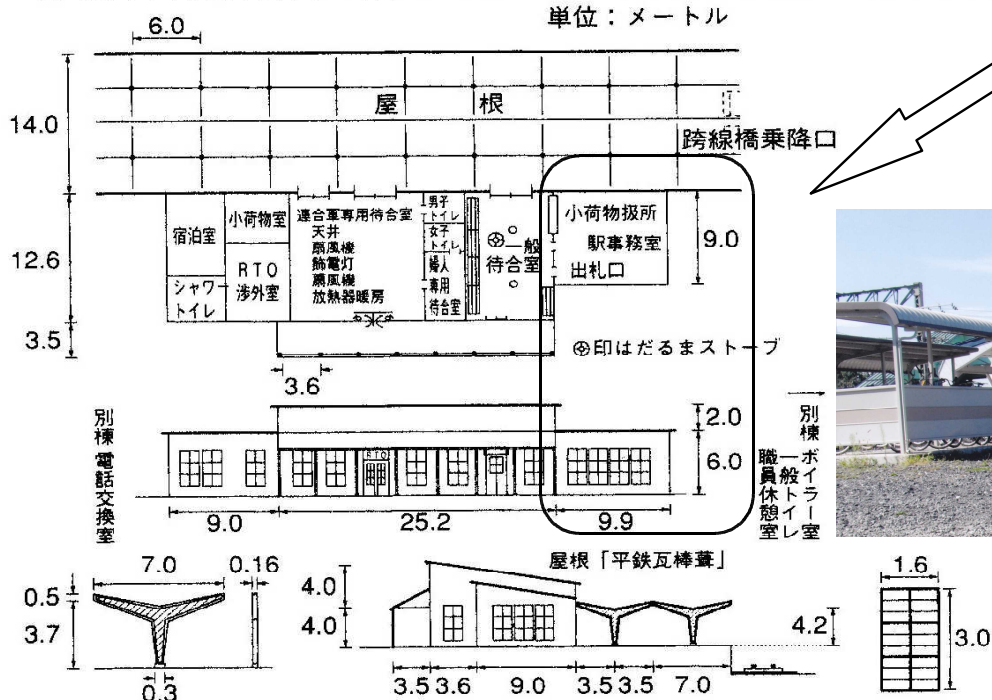
桔梗野 千葉 謙一

現在の陸奥市川駅は、昭和23年1月31日に完成した建物で、その後震災で多くの部分が損壊しましたが、一部が現在も使用されています。

陸奥市川駅になる前は轟木信号所で、列車のすれ違いや追い越しのための施設でした。昭和14年に陸軍八戸飛行場（現在の八戸駐屯地）が建設され、昭和17年に飛行場まで引き込み線が敷かれました。そして昭和19年に陸奥市川駅が誕生しました。

昭和20年、戦争が終わって日本に連合軍が進駐し、陸軍八戸飛行場にもアメリカ軍が進駐しました。そして陸奥市川駅にアメリカ軍のRTO（輸送司令部）が設けられました。しかしアメリカ兵の机やソファなどをおく場所が狭く、昭和21年に全面的な改修にとりかかりました。現在の陸奥市川駅の建物は右図の駅事務室だった所です。

「陸奥市川駅」概念図 昭和23年1月31日～27年3月23日 (原図作成・奥山孝氏)



現在の陸奥市川駅



参考：『連合軍
専用列車の時代』
資料写真提供
：木村商店
木村啓一氏

八戸市最大のブナ(轟木上町内)

轟木下 木村隆一

巨樹や古木は何百年も生き続け、その土地の歴史を見守ってくれた大切なものだと思います。八戸市では一定の条件を満たした樹木217本について現地調査を行い、「保存樹木」として市内で30ヶ所38本を指定しました。市川町からは「赤坂下(轟木上町内)のブナ」2本が選ばれました。樹木の両側には、「保存樹木 樹種 ブナ 指定番号 第26-1号及び2号 指定年月日 平成23年3月25日 八戸市」という標識が立っています。このブナの木は、幹の周りが4.56メートル(右)、と3.45メートル(左)、樹高は31.00メートルで、**八戸市では最大だ**とのこと。

「八戸の樹木めぐり」には、「ブナは、白神山地や八甲田周辺に多く見られ、八戸市ではほとんど目にすることはありませんが、是川縄文遺跡からは少量ながら花粉が発見されており、太平洋側の三沢市や六ヶ所村、また洋野町では今でも見られることから、この木のある市川町周辺でも、かつてはブナが生育していたと思われます。この赤坂下のブナは、自生したものか、人為的に植えられたものかはわかっていませんが、いずれにしても、**大変貴重な木です。**」と説明されています。

しかし、残念ながら去る3月21日の午前2時頃、猛吹雪のためか、左側の幹が2箇所折れてしまいました。(小向正一氏 談)

【八戸市の保存樹木等】

(含・天然記念物その他)



- ・内丸のヒマラヤスギ
- ・広澤寺のモクゲンジ
- ・広澤寺のヒイラギ
- ・更上閣のクロマツ
- ・長者山のエドヒガン
- ・南部会館のアメリカキササギ
- ・南部会館のニシキギ
- ・八戸東高校のユリノキとハクショウ
- ・八戸市庁前のエゾノコリンゴ
- ・八戸市庁内のクロマツ
- ・龍興山のアカマツ
- ・龍興山のモミ
- ・稲荷大明神のクリ
- ・馬場瀬のヤマボウシ
- ・大倉のカツラ
- ・高松寺のカヤ
- ・セノ神のイチイ
- ・黒坂のアカマツ
- ・黄檗のイチイ
- ・天満宮のオオバボダイジュ
- ・白浜観音のクロマツ
- ・鮫八幡宮のケヤキ
- ・若宮八幡宮のキタコブシ
- ・中居林のイヌザクラ
- ・七崎神社の「神の杉」①②③



(平成26年3月19日撮影)

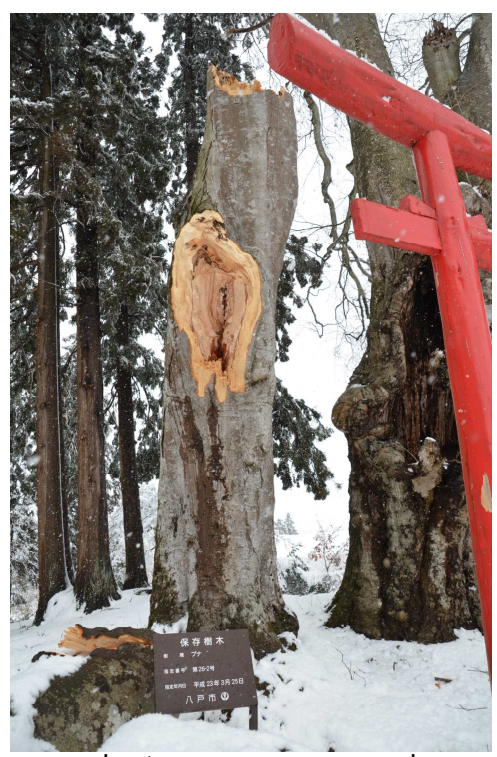
保存樹木

樹種 **ブナ**

指定番号 **第26-2号**

指定年月日 **平成23年3月25日**

八戸市



↓ (折れた左側のブナ) ↓
(平成26年3月21日撮影)

-
- | | | |
|-----------------|---------------------|-------------|
| ・南宗寺のイチイ | ・大慈寺(長者地区)のイチヨウ | ・神明宮のイチヨウ |
| ・八戸高等学校のシダレヤナギ | ・赤坂下(轟木上)のブナ | ・高館蒼前神社のケヤキ |
| ・八戸駅前のイチイ | ・熊野神社のキハダ | ・前田のカツラ |
| ・岡田観音のイチヨウ | ・秋葉山御堂の エゾエノキとケンポナシ | ・根城跡のイチヨウ |
| ・櫛引八幡宮の駒立杉と大ケヤキ | ・新井田小学校のプラタナス | ・毘沙門のイチヨウ |
- (以上)

【お話】 八戸市都市整備部公園緑地課

【資料】 <保存樹木・天然記念物 八戸の樹木めぐり>

